

神奈川県不登校対策検討委員会から小・中学校の先生方へ

登校支援のポイントと有効な手立て

「誰もが和らぐ学級を目指して」

～不登校に悩む子どもや保護者への温かな支援～



登校支援が必要な時に役立つ、とっておきの5つのアイテム

- 1 登校支援が必要な子どもをチームで支援する校内体制
- 2 担任を中心とした子ども・保護者への初期対応の心得
- 3 担任を中心とした保護者との具体的な連携
- 4 各学校の効果的な取組みと校長先生や保護者の方からのメッセージ
- 5 小・中学校間や他機関との連携の推進

神奈川県教育委員会

担任・教科担当

安心・楽しい・和らぐ学級を作ろう！

- 子どもの「常態」の把握が大切。
- 声かけは一人の子どもに対して1週間 5 回が目安。

子どもの良いところを認め、小さなことでも褒めるようにしましょう！

- できないことを指摘するのではなく、できていることに目を向けて。
- 適切な「期待」は、子どもの成長の糧。

養護教諭

子どもの健康を守る砦となろう！

- 子どものサインを察知し、状態を把握したら担任と連携を図る。
- 校内の組織による支援を行う。
- 「保健室便り」等による不登校の未然防止について、保護者への協力を求める。

「心の居場所」の提供を！

- 心身両面からの健康相談活動を行う。
(保護者の相談にも寄り添う姿勢で。)
- 心が落ち着き安心できる時間と空間を提供し、自立・成長を見守る。

スクールカウンセラー等

教職員と積極的に連携しよう！

- 子どものアセスメント
(見立て)
- コンサルテーション
- 保護者への支援
- 他機関とのパイプ役



管理職等

学校全体で取り組む支援体制を作ろう！

- リーダーシップを発揮し、支援体制を確立する。
- 保護者等を励まし、学校全体としての取組みを提示する。

教育相談コーディネーター 児童・生徒指導担当

気になる子の数だけチームを立ち上げよう！

- 月3日以上欠席は要注意！様々な支援方法について、チームで考える体制づくり
- 教職員同士の和やかな人間関係と担任を孤立させない支援体制の確立
- 子どもたちを支援できる資源を活用
- 他機関との連携についての助言

年間を見通した登校支援のポイント

	4月	5月	6月	7月
チーム支援	前担任との情報交換	校内研修会	連休明けの登校支援	学級の児童・生徒全員との教育相談
	配慮すべき子どもの把握	新たな人間関係づくり	3日連続の欠席にアクション！ 早期対応で長期化防止！	豊かな人間関係づくりを 目指した授業の展開 I
	健康チェック、基本的な生活習慣チェック (養護教諭を中心に) 保健室登校の子どもへの対応 (担任・SCと連携)			小・中連携 I 授業参観・情報交換

3日連続の欠席への対応は登校支援の第1歩

初期対応の合い言葉 → 「1日目電話! 2日目手紙! 3日目家庭訪問!」

こんな様子が見られたら…。(チェックリスト)

[健康面]

- 体調不良での遅刻、早退が多くなってきた。
- 理由は問わず、月3日以上欠席があった。
- それほどの体調不良でもないのに、保健室に行く事が多くなった。
- 給食(昼食)の量が以前より著しく減少または増加した。

[学習面]

- 学習意欲が低下している。
- 特定教科のある日に欠席・欠課が繰り返される。

[人間関係]

- 友だちと離れ、一人でいることが多くなってきた。
- 登校しても教室以外で過ごすことが多くなってきた。
- 友だちにからかわれたり、仲間はずれにされたりしている様子が見られる。

すぐに本人・保護者に様子を聞いてみよう!

「〇〇な様子が見られたのですが、家庭ではどうですか?」
… 用件は簡潔に。

Point 1

電話連絡

- ・家庭の事情を考慮し、望ましい時間帯に連絡する。(教員にとって常識的な時間が良いとは限らない)
- ・保護者の顔をイメージしながら、保護者の訴えをよく聞く。
- ・保護者を不安にさせないように、学校でできることをいくつか伝える。(例えば、朝、迎えに行きましようか?等)
- ・保護者や子どもの負担にならない範囲で連絡する。
- ・子どもが電話に出られない時は、保護者をとおして、担任からのメッセージを伝える。



「教師に望まれる、不登校の子どもへの理解の姿勢」

不登校は「学校と子どもが合わない時」に起きてくる

- 不登校は「甘え」や「怠け」ではない。「弱い」からでもない。
- 「本当は楽しく学校に行きたい。でも、行けないから困っている」という気持ちを支えましょう。
- 「不登校の〇〇さん」ではない。「〇〇さん本人」と会い、辛さを理解しよう。

Point 2

担任として、心がけたいこと

- ・自分の心身の負担感を保護者に言わない。
- ・自分一人で解決しようとせず、周囲の援助を拒まない。
- ・一つの方法論や偏った考え方に固執しない。
- ・自分の能力や資質を否定しない。

8月

9月

10月

11月

校内研修会 夏休み明けの登校支援

学級全員との教育相談期間の設定

配慮すべき子どもには
夏休み中も緩やかな
登校リズムを・・・

3日続きの欠席には働きかけを



小・中連携を踏まえた学校行事、学年行事、合同授業などによる子どもたちや先生との交流

学習支援を忘れずに!

小・中連携 2
小6 についての情報交換

夏休み明けの健康チェック、基本的な生活習慣チェック (養護教諭を中心に)